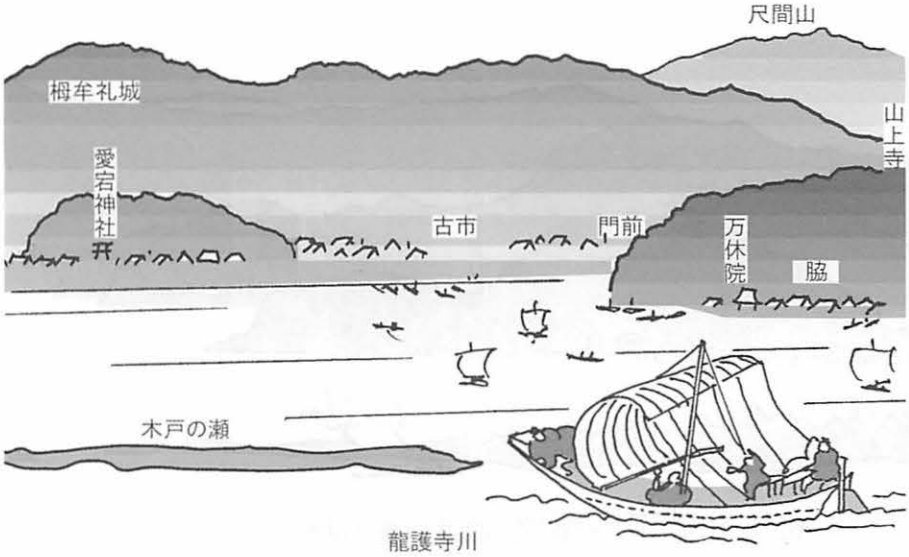
栂牟礼城下と関連記事

（さとうたくみ作成）



鎌倉時代

『豊後国図田帳』弘安八年（一二八五）

豊後国佐伯荘　**本庄**一二〇町／堅田村六〇町

『関東下知状』承応四年（一二九一）

豊後国佐伯庄は惟久（第四代佐伯左衛門尉）の領、

内面方（本庄）佐伯政直（惟久の嫡男、法名道精）。

堅田方（堅田村）佐伯惟佐（惟久の次男、法名道法）。

※本庄を内面（うちおも）方と称す。佐伯湾岸の外面に対して内面、番匠川の河口汽水域に当たり、水上交通の要衝として佐伯氏の城下町が形成された。

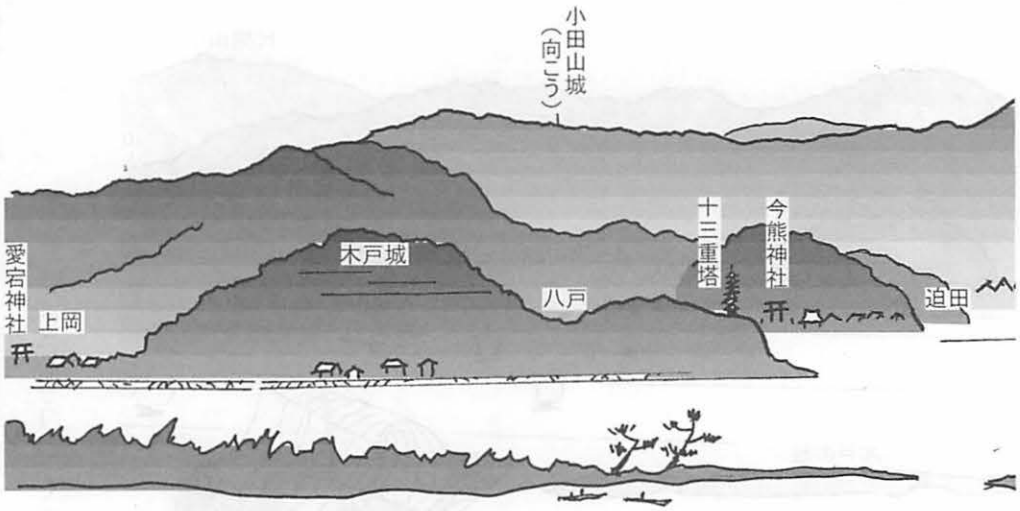
南北朝時代

『日向記』建武四年（一三三七）

○**伊東祐持日向下向の事**／豊後国佐伯、**亀岡**修理大夫惟長の婿となり、国中安泰に治め星霜十三年の春秋を送る。伊東祐持は検非違使に召され、貞和六年（一三四九）六月に佐伯より上洛、病により七月七日に京都で御逝去。

※亀岡修理大夫惟長は六代佐伯備前権守惟宗の末弟。亀岡とは上岡のことか、あるいは木戸城の山容を亀の姿に例えたものか。

室町時代



栂牟礼城下鳥瞰図（龍護寺裏山より）

『大友興廃記』

○**瀬登り脇差の事**／佐伯惟勝の代に蒲戸崎で落とした脇差を龍護寺参詣の折に**木戸ノ瀬**に拾い上げる。

○**惟勝、惟常兄弟合戦**／惟常は兄の惟勝を憎み伊予国へ渡り居住す。惟勝は例年正月十六日に堅田金剛寺へ参詣す。この隙を伺って予州より佐伯に渡り、惟勝の住居**木戸城**を攻めらる。

○**佐伯惟治の魔法と栂牟礼攻**

惟治は山上寺の住持春好を師匠にして魔法を行い、祖母嶽大明神を迫田に勧請。大宮八幡宮ほか多くの社寺を再興した。魔法を成就した惟治は春好を生害、**木戸ノ瀬**に白鷺を捕らえさせた。大永七年十一月二十五日、栂牟礼を落城した惟治は日州三河内で自刃。太守大友義鑑は佐伯の家を養うため惟治の伯父惟常に仰せ付けた。

戦国時代

『**伊勢参宮帳**』天正十六年（一五八八）～十九年（九一）

うちおも與助殿、同祐助殿。**うちおも**葛木源助殿、松井善助殿。**うちをも**杉谷五右衛門殿、高畑助左衛門殿。**内をも**しゅ一ノ瀬平左衛門殿、同新左衛門殿。**うちをも**泥谷作内殿、甚左衛門他十一名。**内をも**坂山孫二郎殿他佐伯衆。